

△背景の布裂は、初めは白いものがよい。皺が旨く出来るやうになつたら、今度は物質を變へる、初めが木綿なら次はモスリン、次は絹、或は縮緬とか羅紗とかいふ風に、其物の性質の研究をやるのも有益である。

△モデルに色のある時に、それを一色畫で現はすには二様の研究方法がある。一は色のあるものでも、白色と見做して、光りと蔭とのみを見て研究する。他は色のあるといふ心持を畫面の上に現はすので、光りと蔭は離れることは出来ないが同時に其色の感じ迄も畫くのである。

△前者は、黒い本の表紙も白いものと見て、光りを受けた處を白く残して置く。後者は、黒い色なら、其割合に蔭よりは無論明るい、眞白に残さずに、黒い本と思へるだけの色をかける。赤や、青や、それ等の色も同じく、其色の光線の反撥及吸収の度に應じて、黄なる色は淡く、赤や紅は濃くといふやうに、色の感じを出してゆくのである。

談 片

○ 野外の寫生に活氣のある繪を描かうといふのには、常にデッサンを充分にやつてゐなくては、いけぬ、平生デッサンをやつてゐる人達は、野外に出て迄でも、石膏でも描くやうにコツ／＼突つき廻すには及ばない。

○ 繪は前の方に明るいものがあつて、まづそれに注意がゆき、漸々深く、奥の方へ入つてゆくといふ風にやつた方がよからう、奥の行詰つた繪は狭く見えて損だ。

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*